

平成21年 2月 定例会

◆(淵上陽一君) 最後にお尋ねいたしますのは、**スクールソーシャルワーカーについて**であります。

経済危機に伴って悪化する一方の雇用情勢に対処するため、予算案には緊急雇用対策事業費が計上されていますが、その対象となる仕事がなくなった人々の子供たち、あるいは仕事はなくさないまでも収入の減少に苦しむ人々の子供たちにも、当然さまざまなマイナスの影響が及びつつあると思われまます。

一例としまして、先般、私立の中学校、高校に通う生徒たちの中で、授業料の未納、滞納がふえているとの報道もあっております。

本件に関連し、私は最近、教育関係者から、スクールソーシャルワーカーの存在とその有用性を聞き知ると同時に、文部科学省により導入されて間もないこの制度が、来年度は予算を大幅に削減されるのではないかということを知られました。

そこで、スクールソーシャルワーカーに関しては、報道される機会が少ないため、県民一般の御理解を得る意味からも、スクールソーシャルワーカーの役割並びに業務の特徴、スクールカウンセラーとの違い、熊本県における導入の経緯、現在の配置状況、その評価、または国予算が削減された場合の県の対処方針について、教育長にお尋ねいたします。

[教育長山本隆生君登壇]

◎教育長(山本隆生君) スクールソーシャルワーカーは、学校だけでは対応が困難ないじめや不登校等の解決のために、その状況を把握し、学校、家庭、福祉や医療等の関係機関による支援体制をつくり、子供を取り巻く学校、家庭環境等を改善することなどの役割を担っております。これに対しまして、スクールカウンセラーは、子供や保護者に直接カウンセリングを行うことを主な役割としているところに、その違いがございます。

本県における導入の経緯と配置状況についてであります。いじめや不登校等の要因はさまざま、学校だけでは解決が困難な状況があり、学校、家庭、関係機関等が連携した取り組みが必要となってまいりました。そこで、平成 19 年度から九州各県に先駆けて導入し、現在、熊本市教育委員会とすべての教育事務所に配置しているところでございます。

その評価についてでございますが、スクールソーシャルワーカーは、不登校状態にある子供の保護者に対して、家庭の経済状態が厳しい場合には支援制度を紹介したり、病気により養育力が不足している場合には医療機関を受診できるようにしたりして、生活基盤の安定に努めております。また、虐待が懸念される事例等には、児童相談所に連絡するなど、福祉部局等と連携して対応しているところでございます。さらに、子供に対しては、適応指導教室につなぎ、不登校状態を改善するなど、確かな成果が上がっており、県教育委員と小中学校長会との意見交換会においても、その効果が大変話題となったところでもあります。

文部科学省による大幅な予算削減に対しましては、全国教育長会議でも強く見直しを申し入れたところでございます。

本県といたしましても、大きく事業見直しを迫られました。厳しい財政状況の中においても、可能な限りの財源確保を行い、その結果、若干の事業見直しにとどめ、次年度においても、引き続き全県下への配置を継続することといたしております。

これまでのスクールソーシャルワーカーの活動の中で構築された関係機関や地域とのネットワークを活用した取り組みを、今後ともしっかりと進めてまいりたいと考えております。

〔淵上陽一君登壇〕

◆（淵上陽一君） 子供同士のいじめや不登校の問題はもちろんですが、経済的、社会的なひずみによって子供たちがこうむる問題の解決は容易なことではなからうと思います。せっかくこういう分野における有用性が高く評価されているスクールソーシャルワーカーの制度が設けられたわけですから、ぜひともこれを継続、充実させていただきますよう、御尽力のほどをよろしく願いいたします。

以上をもって私の質問を終わらせていただきます。

一言だけ、ごあいさつを申し上げたいと思います。

私は、当選以来、観光と農業振興を通じた地域活性化の重要性を訴え続けております。

蒲島知事におかれましては、マニフェストでありますくまもと再生4カ年計画並びにその実現目標を定めたくまもとの夢4カ年戦略の双方に観光と農業が大きな柱として掲げられておりますことは共感を覚えますし、また、本年1月開催された第2回くまもと未来会議が観光と農業を柱に独自戦略をとる提言を行われたことに、大いに意を強くしております。

財政危機に加え、戦後最大の経済危機の直撃を受け、熊本県のかじ取りはいまだかつてない厳しい中にありますが、知事が県民に示し続けておられる夢の実現に向かって、ともに頑張りたいと思います。

大変緊張しまして、本当に聞き苦しいところもあったかと思いますが、本日用意いたしました質問をこれで終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。